



文化庁の調査官による江原浅間神社での予備調査の様子



神像の全体 如来形の半身を3躯の女神が囲む他に例のない造形を見せます。



江原浅間神社 古代大井郷の中心として、ふるくから信仰をあつめてきました。

市内で5カ年にわたり実施してきた、この木造浅間神像を含む、仏像や神像の調査成果を美しい写真とともに紹介した報告書です。現在一般に販売中です。

A4版440ページ 4500円

南アルプス市教育委員会／ふるさと文化伝承館／安藤家住宅にて販売しています。

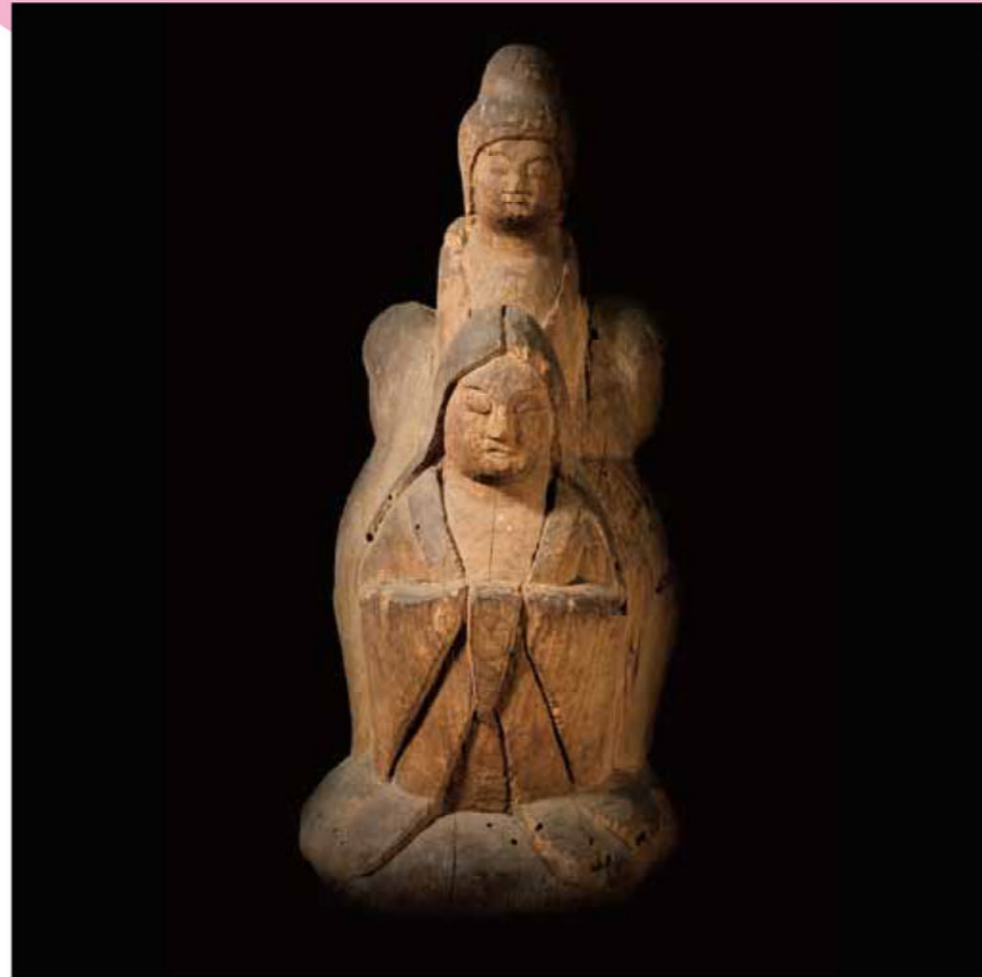
お問合せ 教育委員会文化財課 TEL(282)7269



現在開催中のふるさと文化伝承館エントランス展『祈りのよこがお展』。市内にのこるさまざまな信仰のかたちを紹介していますが、期間中の第2回の展示リニューアルとして、3月1日(金)よりこの江原浅間神社「木造浅間神像」の写真やその歴史的背景などを解説したパネル展を開催します。

(～5月8日(水)まで)

お問合せ ふるさと文化伝承館 TEL(282)7408



江原浅間神社 木造浅間神像(平安時代)

# 江原浅間神社のご神体 木造浅間神像

もくぞうせんげんしんぞう

## 国重文指定へ！

甲西地区江原の浅間神社のご神体「木造浅間神像」が、2月27日に行われた国の文化審議会の答申を得て、重要文化財に指定されることになりました。

このご神体の存在は以前から知られていましたが、教育委員会が平成18年度から22年度の5カ年をかけて実施してきた市内の仏像や神像の総合的な調査の結果、改めてその価値が明らかになり、今回の指定答申につながりました。

像の高さは40cmほど。調査の結果、彫り方の特徴から平安時代、11世紀頃に造られたと見られることがわかりました。富士山の信仰に関わる彫刻としては現在のところ日本最古の例ということになります。さらに、仏様のようなお姿を三人の女神が囲むその造形は、全国的に見ても他にまったく類例がなく、古代における富士山信仰のかたちや、それに寄せた人々が想いを我々に教えてくれる、大変貴重な文化財ということが出来ます。

ご神像は、現在詳細な調査のため、東京の文化庁に遷座(せんざ)移設)されており、今後は東京国立博物館におけるお披露目の展示(新指定文化財展)4月下旬から5月上旬を予定)を経て、5月中旬頃、ふるさと南アルプス市に戻ることになります。

南アルプス市の歴史を誇るべき宝物にまたひとつ光があたりました。しかし、これも千年近く、このご神体を大切に守り伝えてきた地域の方々の信仰があったからに他なりません。

皆さんのふるさととしての南アルプス市。その郷土を象徴するのが地域の文化財です。これからも自らのルーツである文化や伝統を大切に守り伝え、これに根ざしたまちづくりをしていくことが、今私たち市民ひとり一人に求められているのではないのでしょうか。

※なお、本像は大切な信仰の対象である「ご神体」であるため、常に一般に公開されているものではありません。